

ニブ・フィックマン
プロデューサー
ラムバス・メディア設立者

ニブ・フィックマンは劇場向け長編映画やハイエンド・テレビドラマ、舞台芸術番組の製作会社としてカナダで著名なラムバス・メディア (Rhombus Media) の設立者です。過去40年以上にわたり同社が製作した作品は世界中で上映され、非常に高い評価を受け、プライムタイム・エミー賞やアカデミー賞をはじめ数え切れないほど多くの賞を受賞しています。



フィックマンはドゥニ・ヴィルヌーヴ、オリヴィエ・アサヤス、アトム・エゴヤン、フランソワ・ジラルール、ガイ・マディン、パトリシア・ロゼマ、ブランドン・クローネンバーグ、ドン・マッケラー、フェルナンド・メイレレスなどの国際的に知られた監督の作品をプロデュースしてきました。代表作は『レッド・バイオリン (The Red Violin)』、『ラスト/ナイト (Last Night)』、『クリーン ある殺し屋の献身 (Clean)』、『グレン・グールドをめぐる 32 章 (Thirty Two Short Films about Glenn Gould)』、『世界で一番悲しい音楽 (Saddest Music in the World)』、『複製された男 (Enemy)』、『ポゼッサー (Possessor)』、『ブラインドネス (Blindness)』などがあり、最近では 2023 年のベルリン国際映画祭でプレミア上映され好評を博した『BlackBerry』などがあります。

現在、フィックマンはピューリッツァー賞を受賞した小説を原作にした、HBO と A24 による 7 話構成の『シンパサイザー (The Sympathizer)』に参加しています。本作の監督はパク・チャヌク、フェルナンド・メイレレス、マーク・ミュンデン。出演はホア・スアンデ、ロバート・ダウニー・Jr.、サンドラ・オーです。またアトム・エゴヤン監督、アマンダ・セイフライド主演の長編映画『SEVEN VEILS』などにも携わっています。